

愛媛県の
自然災害伝承碑
から学んだこと



八幡浜市立
白浜小学校 6 年 月
垣内 杏

きっかけ

昨年、南海トラフ地震について調べました。その時に、自然災害伝承碑があることを知り、愛媛に昔、どんな自然災害が起ったのかを知りたくなりました。知ること、どんな場所でどんな災害があつてどんな被害があつたのか、これからの教訓として自分はどうしたらいいか考えることができると思いました。

自然災害伝承碑とは

過去に発生した自然災害(洪水、土砂災害、高潮、地震、津波、火山災害等)の様相や被害状況等が記載されている石碑やモニュメントのことです。これらの碑は被災場所に建てられていることも多く、過去にその土地でどんな災害が起ったかを知ることが出来ます。全国630市区町村で、2173基が申請されています。国土交通省、国土地理院のホームページに公開された地図では①このマークで表示されています。

国土地理院ホームページより

愛媛にある自然災害伝承碑

R6年8月現在

	番号	名称	地区
東予	①	関川改修記念碑	四国中央市土居町
	②	復興碑	西条市千町
	③	客土記念碑	西条市千町榎端
	④	堤防決潰記念碑	西条市千町榎端
中予	⑤	立岩川洪水碑	松山市才之原
	⑥	北温海岸防波堤竣工記念	松山市北条辻
	⑦	豫州溺死者招魂碑	松山市三津浜
	⑧	大可賀溺死者招魂碑	松山市大可賀
	⑨	水害復興記念碑	伊予郡松前町
	⑩	災害復旧碑(大久保)	伊予市双海町
	⑪	災害復旧碑(串)	伊予市双海町
南予	⑫	須沢追小卓碑	大洲市長浜町
	⑬	平成30年7月豪雨災害復興祈念碑	西予市野村町
	⑭	平成30年7月豪雨災害復興祈念碑	西予市野村町
	⑮	平成30年7月豪雨災害復興祈念碑	宇和島市吉田町
	⑯	平成30年7月豪雨災害の碑	宇和島市吉田町
	⑰	防波堤竣工記念碑	宇和島市津島町
	⑱	テラ台風時辰島曹業諸慰霊塔	日振島(沖の島)

愛媛県の 自然災害伝承碑



日振島をのぞく、
すべての伝承碑をまわって感じた、
のは、海に面した所に多くあ
ることが分かった。その一方で
すばい山の中や田町の中に
たっている伝承石碑もあり
それぞれどんな災害だったのか
調べてみたいと思った。

伝承碑の災害を年代別に分けてみた。

① 明治17年



⑦ 松山市三津浜
「豫州溺死者招魂碑」
⑧ 松山市大可賀
「大可賀溺死者招魂碑」



「明治17年(1884年)8月25日 瀬戸内海全体で甚大な高潮の被害が出た。県内では現在の八幡浜市、西予市など宇和海沿岸部でも高潮被害を受けたが最も被害が大きかったのは、現在の松山市で、三津浜や大可賀で犠牲者が出た。」
四国災害-カワスミ

「明治17年8月25日西日本を襲った台風は高潮による被害をもたらした。なかでも温泉郡山西村の大可賀新田では、午後11時ごろ、高潮のため北西の堤防が一時に決壊、一帯は潮が充満し戸数約70戸のうち、溺死者53人、家屋の流失49戸、田畑流失53ヘクタールの被害を一瞬のうちこうむり、部落壊滅の大惨状となった。」
松山市史 第3巻

言周べている「愛媛ぶらぶらある記 06、自然災害伝承碑を訪ねて...③」の中に、昭和22年の大可賀付近[国土地理院ホームページから引用したものを加工]の写真を見付けたので、それを見ていると、被害にあった場所は、海に近いこと、また、今は公開されていないブログで「台風と満潮とが重なったのであろうか、古三津船ヶ谷松木あたりほど被害が及んだらしい」という文があった。本当ならとても広い範囲に及んだのが分かりました。



上記航空写真に石碑の位置等を加えたもの(国土地理院ホームページから引用したものを加工)

大可賀溺死者招魂碑はこの災害で亡くなった方の供養納骨のために地域の方が建設された「御名号堂」という御堂の境内にありました。ただこの時は御堂が工事中で中に入ることはできませんでした。御堂の中には左の絵「明治拾七年暴風雨津浪え惨状図」が昭和8年(49回忌)に奉納されているそうです。

絵写真、四国愛媛の災害史と文化財レスキューより

町中に急に出てくる「豫州溺死者招魂碑」三津厳島神社へ向かう途中にありました。他にも「荻屋畑の戦い」の死者を弔うための元町地蔵も一緒にありました。



御名号堂絵画「明治十七年暴風雨津浪之惨状図」

いつ
明治19年

どこで
大洲市長浜
⑫「須沢追悼碑」
松山市
⑤「立岩川洪水碑」
〈松山市オニ原の災害〉



「9月18日、暴風雨に見舞われ、神田・波田
八反地の3村では9月22日に立岩川の高土
手堤防約1,300mが決壊し、溺死死者
9人、家屋流失10数戸、田地流失45ha。
(愛媛県警察沿革資料、松山西署沿革誌
による)尾儀原村など立岩川流域各村は、
9月25日、立岩川の堤防数ヶ所が決壊し、
大洪水。溺死死者18人、家屋の流失

74戸、半壊97戸、田地流失294ha
溺死牛馬14頭、被災者644人。

(「愛媛県誌稿」による)
四国災害アーカイブス
愛媛がらびる記 自然災害伝承碑を
訪ねて⑤

「立岩川洪水碑」は道から
少し階段をのぼった先に
ありました。碑の前には
立岩川が見えました。



二人は近くに大きな川があって、すぐに下にお
ることができるのは少しあぶないなと思いました。

どんぱ
「明治19年9月10日に襲来した台風は九州の南東部より豊後
水道を経て、広島県西方を通過し日本海に出たもので、本県はその直
撃を受けた。そのうえ、9月22日から長雨となり、25日にいたってようやく回復した
が、各地で河川が増水し立岩川(風早郡)、石手川(温泉郡)の堤防が決壊
したほか、肱川がはん濫し、大被害をこうむった。愛媛県史 社会経済編」



〈長浜での災害〉
「9月24日午後11時33分、須沢川の上流である谷の
奥で幅270mにおよぶ大規模な山崩れが発生
山裾の須沢部落を直撃した。このため、
死者39人、家屋の埋没等72戸の大惨事と
なった。愛媛県史、社会経済編より」

エビネ園を少し上がると見えてくる
「須沢追悼碑」
山をのぼっていくと道沿いに川が
ありました。



39人の方が土砂くずれにまきこまれて、
なくなったことがわかり、山の中の災害に
ついて考えさせられました。大雨がづく
と土砂くずれもおこることをあらためて
感じました。松山の土砂くずれを思い
出し、川や海のちかくだけでなく山の
中も何か対策をしないといけない
と思いました。

↑39人中27人の遺体は見つから
なかったそうです。そして災害から4年
後に追悼碑を立ててくれた方の
霊を弔ったそうです。近くの砂防ダム
の工事中に見つかったお地蔵さんが
碑の横に設置されています。

17

どいぞ

どんぱ

明治26年
(1893年)

西条市禎瑞

⑥「堤防決壊記念碑」



碑には「いかなる高潮波荒れにも心強く思ひ居たるに、
図らずもこの災ひに罹り、今より後も、天災是はかりがた
ければ努め慰へかたすべからず」とほられているそうです。

禎瑞堤防は天明元年(1781年)に築かれ、百姓も動員して作た
ものだった。だから村人たちは安心していたけど、この災害で安心では
いけない過去の事例から学ぶ災害の備えを忘れないようにという
当時の人たちの思いが伝わりました。



石碑の前は川が流れうしろは海で、
でした。堤防のむこうは海で、
すごく不思議な風景でした。
石碑の近くに龍神社もあり、
寛政11年(1799年)に海の平穏を
祈るために建設されたそうです。 - 5 -

この災害の時に龍神社が壊れたことも知られて。愛媛県ふるさと記 自然災害に学ぶ碑を訪ねて④より

「明治26年(1893年)は異変の年であった。年のはじめは稀な
大雪で、積るこゝ三尺余。夏期は干魃甚しく、更に10月には
大暴風雨の襲来に因りて各所に堤防の決壊があった。
禎瑞海岸も龍神社の西方が94間にわたって崩れ、
浸入した海水は住宅の軒を没し、耕地が水底に没すること
90日におよんだ。」

西条市記1060頁

四国災害アーカイブスより

「明治26年10月14日襲来の台風は、14日朝九州の南部から
豊後水道の南部に達し、本県全域を暴風雨圏に巻き込み、15日に
四国沖を南東方に去った。被害状況の詳細は定かではないが、
九州・四国地方の被害は甚大であった。本県では東・中予、
とりわけ東予地方の被害が激甚で、明治期で最大の災害
となった。」

えひめの記憶

愛媛県史、社会経済部

被害状況の詳細は定かではないと書かれていた通り、色々調べ
たが詳しくはわからなかった。ただ、災害復旧のために多額のお金
が必要になり県政開始以来初めて県債発行に踏み切り、国庫
補助だけでなく天皇・皇后両陛下より御下賜金が下されたそう
です。県外では、熊本県で827人、岡山県で423人、鳥取県で328人、
大分県で266人、長崎県で136人、佐賀県で64人の犠牲者がでた
そうです。

レファレンス協同データベース

「日本の自然災害」(国政問題調査会、国政図書出版協会)

明治32年

どこで 四国各地

四 国中央市土居町

①「關川改修記念碑」



「関川改修記念碑」は
八坂神社の境内にありま
した。八坂神社のすぐ横
に堤防があり、川が流れ
ていたので、関川かと思っ
ていたら古子川という名前
でありました。関川は少し

はなれたところ(に)ありました。すべての川が溢れたと書かれていたのので川にはさまれた地区の方は怖い思いをしたことがわかりました。

一番の水害で被害の大きかった別子銅山周辺はたくさん
の石碑があるようです。新居浜市の立川自治会グラウンド
にある「水害供養塔」や瑞応寺にある「別子銅山遭難
流亡者碑」、庄内町にある「水害記念碑」、新須賀町に
ある「地藏堂由来碑」、また、香川県豊市まで、災者が流され
ていったことをうけて香川県豊市に尾に、「溺死三十三霊之塔」
などがあることが分かりました。しかし、新居浜市は自然災害
伝承碑に申請されていなかったため言われて知りませんでした。南予に住む私には
（？）のぶ登録されたらきっと知っていたらと思うようにした。

とんぼ 火害

「県内の水害の中でも、明治時代以降最も犠牲者の多かった災害が明治32年(1899年)8月の大水害である。8月28日に四国を通過した台風により、県内をはじめ四国で大きな被害が出ている。特に被害が大きかったのが東予地方であり、その中でも別子金岡山周辺では甚大な被害が出て、新居浜と旧別子では512人が亡くなった。現在の四国中央市でも関川が氾濫し、西条市のカノ茂川も氾濫して広範囲が浸水した。愛媛県内全体では828名が死亡し、行方不明者も87名を数えた。」

四国・愛媛の災害史と文化財にも
(愛媛県歴史文化博物館)

四国中央市の災害

「当地方は特有のやまじ風を受け、毎年その被害に苦しんだ。長津村・小富士村・土居村は特にひどかった。この定期的にくる台風まがいの強風とは別にこの地方に襲来した大暴風雨のうちで明治32年8月28日から降り始めた雨は風をともなうて名実ともに大暴風となり、関川・西谷川・浦山川、その他すべての小川にいたる迄堤防を流し、溢れ、田畑・家屋を損壊し流失させた。そして原野瓦礫の河原と化してしまった。その被害惨状は前古未曾有のものであった。(中略)

当時の河川堤防はいたって不完全であった。出水度に大小の被害を受けていたのはそのためであったが、この32年の大水害は、予想外のものであった。関川関係では、42人の死者を出した。

土居町誌、144頁・四国災害アーカイブス、



顕愛懐ふらぶる記自然災害伝承碑総林と①刊

いつ どこで
昭和18年(1943年)松前町
20年(1945年)「水害復興記念碑」

どんな災害

〈昭和18年災害〉

昭和18年(1943年)7月21日〜24日の台風により、松山では平均雨量の5ヶ月分が4日間に降った。県下の被害は死者114人、行方不明20人、家屋全壊1132戸、床上浸水27,020戸、堤防決壊1,074戸となった。松前町では、23日午前9時に北伊予村徳丸地先の左岸堤防が決壊し、続いて岡田地区6箇所も決壊し、耕地の流失・埋没1,730町歩の被害を受けた。

四国災害アーカイブズ
松前町誌38-40頁及び519-521頁



写真7 「伊予郡松前町 県道夫婦橋流出跡」

四国愛媛
災害史と
文化財
レスキュー
あり



徳丸地区の堤防決壊箇所と罹災状況 ※ 国土地理院電子国土基本図から作成

愛媛
ぶらぶら日記
自然災害伝承
をたづねよう



写真6 「伊予郡岡田村 稲埋没状況」

「水害復興記念碑」は素鷲神社の境内にありました。素鷲神社は松前中の住宅地がある大通りを、



少し奥に入った所にあります。神社の前は田んぼが広がっていました。大通りを松山方向にむけて進むと、堤防があり、



重信川がありました。堤防はとても高く、これまでに多くの災害が起り、地域の方の対策として堤防が高くなったのだと思います。

〈昭和20年 枕崎台風と阿久根台風〉

枕崎台風... 終戦後間もない昭和20年9月に西日本を中心に甚大な水害と砂災害をもたらした。県内では182名が犠牲になった。松前町では、17日の夜1時から風雨が一段と烈しくなり、晩稲の稲が真白になり、家屋倒壊1戸、半壊1戸の被害が出た。

〈阿久根台風〉

10月10日、台風により重信川の堤防は各所で決壊した。上高松でも内土手も含めて3箇所が決壊し、川原と化した。

いつ
昭和21年
(1946年)

どこで
西条市禎瑞
③「客土記念碑」
松山市北条
⑥「北温海岸防波堤竣工記念」

③
(西条市の被害)
「昭和21年12月21日の地震により、禎瑞新田で家屋の倒壊、一部堤塘の崩壊、潮水の噴出、地盤沈下等があった。禎瑞地区の地盤沈下は約20cmであった。このため、客土工事が行われたが、最終的に工事が完了したのは昭和45年であった。四国災害アーカイブズより」



嘉母神社の境内に客土記念碑がありました。横にも石碑があり、工事について書かれてました。堤塘が土を高く築いたものだということや客土がよそから土を運び入れるという意味を知り、地域を守るために色々考えた、復興に取り組んでいることを知りました。また、4の「堤防決壊記念碑」として近くにありました。でも2つは違う災害のため、このあたりは、昔から多くの水害に合っていることが分かりました。ちなみに、この嘉母神社には日本のおいしい水が湧いていて、とてもおいしかったです。

どんな
昭和南海地震

「昭和21年12月21日未明、南海道沖(和歌山県南方)でマグニチュード8.1の地震、震源の深さ約30kmの大地震が発生し、震動や津波により中部以西の各地で大きな被害が出た。愛媛県では、21日午前4時19分頃震度4度(中震)から5度(強震)の地震に襲われ、被害は県下一円に及び、死傷者58人、家屋の全半壊1,313戸におよんだ。地震後、瀬戸内海沿岸では地盤沈下が続く。その対策に追われることになったのである。2020年の記憶、愛媛県史社会経済より」

⑥
<松山の被害>

「このとき本市では約60センチの地盤沈下をきたし、以後海岸保全工事の必要を迫られる事になる。北条市誌より」

「松山市江島江町から浅海町に至る約15kmの海岸は、標高3~4mの石積堤防又は天然海岸で、度々高潮被害を受けてきたが、昭和21年12月の昭和南海地震により約60cmの地盤沈下が生じ、その後の昭和25年(1950年)、27年(1952年)、29年(1954年)の相次ぐ台風により大きな被害を生じた。国土地理院、自然災害伝承碑の地図より」



25年 台風→旧北条市では洪水発生
キジア台風→キジア台風から10日後襲来、洪水発生
27年台風→100ミリ以上の雨が降り、各地に山崩れ、堤防決壊等続出した。
29年台風→松山港検潮計設置以来の高潮位と重なった。北条市の被害額は2億8240万円に達した。四国アーカイブズ、北条市誌より

多くの災害に会ったことで、この北温海岸防波堤が作られたことがよく分かりました。大きな鹿島神社大鳥居の傍にあります。この昭和20年代はたくさん災害があり、日本でもたくさんの方が犠牲になっていて、すごくおどろきました。

117
昭和24年
(1949年)

18



宇和島市日振島
⑱「テラ台風日振島遭難者慰霊碑」

どんな

「昭和24年(1949年)6月20日午、テラ台風により、南予地方海岸部及び宇和島に出漁中の漁船などは甚大な被害を受けた。行方不明800人の大半が日振島のいなし網漁船であった。」

愛媛の新聞 100年

「日振島は当時電気がなく気象情報の伝達が遅れ、漁民328名が台風接近を知らずにイワシ漁に出かけ、21日1時

頃に船と船をうないだロープが切れ船は散り散りとなり、106名が犠牲となった。地理院地図より

「日振り島まではフェリーが出ていたがこの伝承碑のある沖の島までの船はなく、地震後で危ないことや漁船をチャーターするのに、予定があわず、お金も高くなるので実際に見に行くことはできなかった。グーグルマップで見ると山の上の方にあるように感じた。写真も地理院の自然災害伝承石碑の地図のものを拝しました。」

117
昭和29年
(1954年)

17



宇和島市津島町田之浜
⑰「防波堤竣工記念石碑」

どんな

「昭和29年は4度にわたって台風による風水害を愛媛県はこうむった。8月18日第5号、9月8日の第13号、9月13日の第12号、9月26日の第15号の台風である。(中略)県下で死者、行方不明16人、家屋全半壊1,916戸、流失86戸などの被害を出して、松山市ほか4市22町29村と県下全域にわたり、災害救助法が発動されていた。その記憶、愛媛県史

石碑にあったことを周ると田之浜地区は25年に防波堤が作られた。しかし29年9月26日に襲来した台風15号による激浪のため僅かに其の基礎工事のみを残し1瞬にして跡形もなく崩壊、係留中の船舶20余隻と共に奪い去られた。この部分に台風の被害があった。」

この碑はバスの停留場1にあり、すぐ横は堤防があった。石碑には、復興までのことも示されており最後は「事に協力を賜った関係各位に深甚の謝意を表し其の徳を称えて後世に伝えんとするものである。」とあった。災害と人々の思いを伝えたい大事な石碑だと思った。

117

昭和45年
(1970年)

どこで

伊予市又海町大久保、

⑩「災害復旧碑」

伊予市又海町串

⑪「災害復旧碑」

大久保の「災害復旧碑」は山の中にありました。お母さんが入る道をまちがてすごく細い道を通って見つけました。裏に、「集中豪雨で山林崩壊河川氾濫、田畑及道路農用施設^(おめがひ)●●●激甚災害を蒙る」とありました。(ほかにも文はありましたが一部をかきました。) 集会場

が近くにおり、初間を富岡川が流れていました。

山の中なので、土砂くずれも起きていたことが分かりました。道に迷った時に

声をかけて、車をゆうどうしてくれた工事作業中のた仕事
事のじゃまをしたのにやさしくして下さってありがとうございました。



どんな

「昭和45年8月21日午前8時、台風10号は須崎市に上陸し、午前10時40分頃には又海町を通過し、鳥取県米子市を経て日本海に去った。又海町内の奥^{おく}地では、320ミリ程度の雨量となった。また高潮のため、豊田港と上漢釜港付近で被害を受け、上灘川では支流を合わせて20数箇所が決壊した。特に富岡川と豊田川は惨状を極めた。又海町の被害は8月25日で住家の全壊1棟半壊6棟、一部破損35棟、床上浸水35棟、床下浸水225棟、田畑の流失、埋没10.5ha、冠水13ha、その他公共土木施設等^(きこう土木施設等)に及んだ。四国災害アーカイブスより」

⑪



国道378号線から下漢釜馬尺の近くを山の方に入るとのぼっていくとありました。道のはしにあってそのうしろは、川がありました。この川が豊田川でした。けこう高さがあつたのにここがあつたと考えるとすごい水が下の家の方におし寄せたのだらうなと思いました。



「昭和45年8月21日、台風16号により未曾有の豪雨に見舞われ豊田川流域は原形を留めぬ大災害を受く。又海町誌^{（おめがひ）}復元ぶらぶらある記
石碑のうらに示された文字に水害ということが分かりました。」

いつ

昭和62年
(1987年)

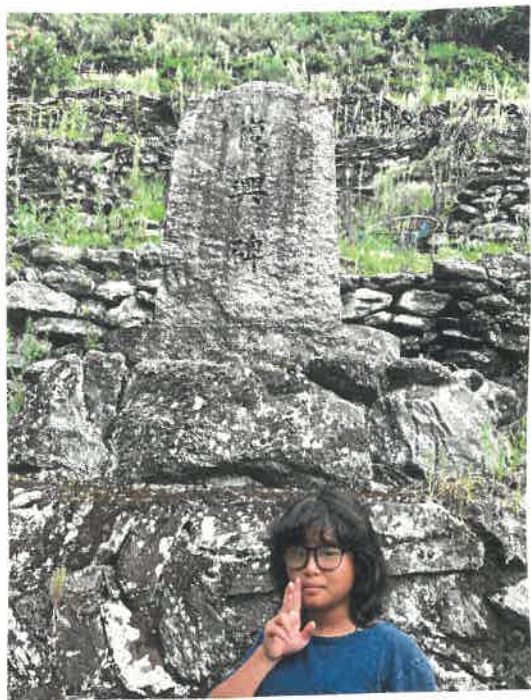
どこで

西条市千町
②「復興碑」+

どんな

昭和62年10月の台風19号により
西条市は床上浸水19棟、床下
沈水1119棟ほか多くの施設
被害が生じた。千町地区では、
集中豪雨により山林や田畑
が崩壊流失する大災害となった。
地理院、自然災害伝承碑地図より

そらやま街道から山道に入って登っていきまし
た。けっこう上にあがっていくとつきあたりに見
えたのが「復興碑」でした。山の中なので「土砂災
害かな」と思ったとおり、言周ると集中豪雨による土砂
災害でした。この土地は地すべり地であり、相田に利用され
ていて、山腹斜面の至る所に湧水があり、近くの谷川の川岸には
水をかくむと非常にやわらかくなる「ギチ」という土がちらばっていて
大災害につながったと考えられているそうです。(愛媛ぶらぶらある記より)
その土地のギチ土にも原因があることを知りました。



いつ

平成30年
(2018年)

どこで

西予市里予村町

⑬「平成30年7月豪雨災害復興祈念碑」

⑭「平成30年7月西日本豪雨災害伝承碑」

宇和島市吉田町

⑮「平成30年7月豪雨災害復興祈念碑」

⑯「平成30年7月豪雨災害の碑」

⑬



どろい広場の中にかいました。防災ステーションで
写真を撮りました。



⑮ 吉田中学校にありました。
当時の生徒のメッセージがかけ
ていました。

⑯ 吉田支所前の広場にありま
した。石碑の土台の途中まで水がきて
いたと記憶がありました。

⑭



三島神社の境内にありました。



どんが「平成30年7月の西日本豪雨による被害は愛媛県全体
 に及んだが、特に南予地方の被害は甚大であった。7月7日、
 宇和島市吉田町で大規模な土石流、地すべり等が発生し、
 家屋・稚き農地が多数被災した。また、肱川では
 野村ダムと鹿野川ダムの緊急放流を行ったこと
 もあり、西予市野村町、大洲市では河川氾濫により
 広範囲が浸水した。県全体で死者32人、安否不明者1人、
 重傷者35人、全壊627棟、半壊3,116棟、床上浸水190棟、
 床下浸水2575棟等の被害が出た。四国災害マーカブスより

号外 愛媛新聞 号外 愛媛新聞 号外 愛媛新聞

県内豪雨8人死亡 県内豪雨 死者19人に 県内豪雨 死者21人に

児童ら3人心肺停止
行方不明者複数



7人不明 捜索続く
南予中心 停電1万世帯



5人不明 捜索続く





愛媛新聞、西日本豪雨災害写真。

平成30年7月の時は、私が歳の時でした。八幡浜も大雨
 による土砂崩れの被害があったとお父さんから聞きました。
 お母さんが当時大洲で仕事をしていたので、大洲が水害
 で大変だった時の話も聞きました。床上浸水の被害が多か
 ったので、知り合いの人の家のかたがいを手伝ったり、消毒液を背中に
 かけて、床下の消毒をした話をお母さんから聞いて、被害で
 大変な大洲の様子を見せられました。3つ上のお兄ちゃん
 と2人で何かできないかお母さんに言うと、お母さんが社会
 福祉協議会に電話もしてくれました。でも、小さい子は危険
 だからとできませんでした。そこでお母さんとお兄ちゃんと3人で遊
 びに行っていた緑地公園で遊び回りました。行った時
 に遊んでいた遊具がすべて流されていたのを見て泣いて
 しまいました。その後も家にある文房具や服くつなどを
 寄付しました。「服もくつもなくてこまる」という話を聞いて
 家が住めなくなるということとは本当に大変なんだと思いました。



1930年8月末大洲の緑地公園の様子



野村の夜
 会館には、災
 害伝承展示室が
 あり、7月7日の
 町の様子が
 動画で見れ
 どんな風に
 水が町をお
 ったのか分か
 ります。実際の映

像で見るとすこし怖く感じました。短い
 時間でこんなに水は増えるんだというこ
 が分かって早目の避難の大切さを改めて知
 りました。(中の撮映はタダオのビデオ)

自然災害伝承碑をまわって分かったこと

災害と言うと地震のイメージが強かったが

愛媛県は台風による大雨や高潮、や大雨による

浸水、土砂崩れなどが多かった。町中でも大雨

が原因で川が氾濫して土地の低い所が水没する

ことを知った。他にも、新しく堤防を作って安心して

いたがそれを越える水害に会ったという伝承碑も

数碑あり、そのどれもが、日々の備えの大切さを伝

えていた。安心しないようにという昔の方の教訓だと

感じた。また、調べるうちに、自然災害伝承碑

に登録していない碑がたくさんあることが分かった。

西予市の昭和18年大雨災害の被災者いれい碑や新

居浜市で起きた明治32年の台風が原因の豪雨による土

砂崩れで亡くなった513人(うち71人が

行方不明)の「水害供養塔」なる5基

また、昭和31年の長浜のバス転落事故

も原因は不明とされているが、強風による

高潮で視界不良で起きた事故が高潮に

さらわれたかと考えられていて、9人の方の名前

が書かれたいれい碑があった。



今回県内の伝承碑をまわって私の住む八幡浜市には伝承碑はないのか、気になって調べたが、市誌にはなかった。市役所に行き八幡浜市の学芸員宇都宮さんに話を聞くと、八幡浜には残念ながら自然災害伝承碑がある話は聞かれないです。市役所の職員が情報を集めて調べたのですが見つかりません。記録もないんです。」とのことでした。八幡浜に伝承碑はないようにした。しかしどんな災害がありどんな被害があったかを調べることで防災ができればとも思っていて市誌を調べて、白浜地区に被害のあった災害を書き出しました。

年代	災害、被害
1915年(大正4年)	台風による高潮 大黒町・新野・近江屋町一帯浸水
1928年(昭和3年)	豪雨 大洲、八幡浜町は総降水量400mmを越し被害発生
1943年(昭和18年)	記録的豪雨、喜木川、五反田川、千刈川が氾濫し、下流の橋は流失、道路が決壊し、各所で寸断。
1954年(昭和29年)	台風15号 高潮が大黒町一帯を河のジメ流れトコ箱によるせきができた。床ずれの浸水もあり、新野・広瀬方面でも床下が浸水した。
2000年(平成12年)	豪雨、大平地区崖崩れ
2003年(平成15年)	台風10号 市道入寺～高里予地線崖崩れ
2006年(平成18年)	梅雨前線 大平地区急傾斜地崩壊土砂災害
2018年(平成30年)	全壊11棟、大規模半壊3棟、半壊85棟、床上浸水19棟、床下浸水252棟、郷土、須川が土砂崩れ、喜木川や宮内川、新川が氾濫し、広範で浸水した。

青→洪水·浸水
黄→土砂崩れ



私の住む白浜地区は、ハチ幡浜の中でも水害が多い地区だと思っていました。でも、昔の災害では土砂崩れもあり、ハザードマップでは土砂災害も多く起きてしまうかも知れない地区だと分かりました。

今年の8月8日、家で1人している時に地震が起きました。はじめはびっくりして、とにかく2階に上がり物も少ない寝室でテレビをつけました。1階に比べると涼しくなるかも知れないと、これまでの勉強で思ったからです。そして、情報を知りたいのでテレビをつけました。地震がおさまるとすぐに、非常用袋を背負って、玄関に降りました。お母さんからの電話で、近所の人の様子を見ること、必要だと思ったらすぐに高い所に逃げることを言われました。その後近所の人から津波は大丈夫なことを教えてもらい、お母さんも帰って来てくれたことから安心しました。1人いる時、本当に不安で怖かったです。どう動いたらいいか分からなかったのもう一度家族で話ができて良かったと思いました。

1人でいて 地震が起きた時

- 地震がおさまるまで頭を守って安全な所でダンゴ虫のホーズか机の下にかくれる



- 揺れがおさまると、2階に上がり、テレビを確認。揺れがひどい場合は2階より外に出て逃げる。地域の人に声をかけて、おばあちゃんを、一緒に連れて逃げる。(30分しかないつもりで) 非常袋も!



- 愛宕中学校でお父さん、お母さんが来るのを待つ。

心配なこと

地震で避難道がくずれている時、

※2通りの道を避難道として考えた。

ハザードマップの土砂崩れにあはうな場所には一時避難場所が入っていなかった。

まずは気を付けて、地域の人が集まる一時避難場所に行く。家からすぐ近くなので高齢のおばあちゃんのこともおねがいができると思った。

●他にも

大雨で洪水になった時 と土砂災害が起きそうな時

○2階に垂直避難。(くつと非常用袋をもっておく)

○避難指示が出たら、避難場所の白浜小学校に気を付けて行く。

(雨がひどいと無理に避難せずに、ばあばと家の2階に避難する。)

○お父さんとお母さんが会いに来てくれるまで避難所で待つ。

まとめ

これまで防災のために、南海トラフ地震について調べたり、消防クラブで防災について学んだり、家族で大洲市の消防署に行き、3時間の救急法講習を受けたりしました。昨年トラフ地震について調べた時に、自然災害伝承碑のことを知り調べたいと思いました。歴史を調べたことで、災害は予想をこえてやってくる、備えが必要だということを感じました。また、地震や大雨がこの最近多いことから、自分1人で家にいる時に地震や水害、土砂災害に会ったらどうしたらいいかを考えることができた。人だとパニックになってしまいうる時に、これまで土砂災害や水害の避難訓練や防災フェスタでまいそうで地域の人に助けてもらうことも大事なことを知った。

これまで以上に地域の方や自分を知ってもらいたいと思った。夜間の避難訓練に参加したり、であたらあひさつしたりと

知らないより知っていた方が私も安心できるし大人の人にも声をかけやすいと思う。私にできることは少ないかも知れないが、命を守り、地域の方と一緒にもしもの時に備えて活動していきたい。 -16-



夜間避難訓練



避難訓練



小年消防クラブ
小4の時に市役所の危機管理課の話を聞いて新聞を作りました。
→ 救急講習

参考にした本・Webサイト

<本>

- 八幡浜市誌
- 松山市史
- 愛媛県史
- 松前町誌
- 北条市誌
- 宇和島市誌
- 保内町誌
- 四国愛媛の災害史と文化財レスキュー
- 愛媛の新聞100年
- 千丈川洪水ハザードマップ
- 八幡浜市土砂災害ハザードマップ

<Webサイト>

- えひめの記憶
- 愛媛 ぶらぶらある記 自然災害伝承碑を訪ねて
- トランス協同データベース「日本の自然災害」
- 四国災害アーカイブス
- 国土地理院HP
- 八幡浜市HP
- 内閣府防災情報のページ 旧前プロジェクト